

幕末京都よみもの

時代背景／六つの施設／人物の素顔

京都が政治の舞台になった

嘉永6年（1853）、ペリーの黒船が現れると、日本は開国か攘夷（外国を打ち払う）かで大きく揺れた。幕府が朝廷の許しを得ないまま通商条約を結ぶと反発が強まり、政治の舞台は江戸から天皇のいる京都へ移っていく。

文久年間（1861～64）の京都には、天皇を尊び外国を退けようとする「尊王攘夷」の志士が諸国から集まり、幕府寄りの人々を狙う「天誅」が相次いだ。幕府は会津藩主・松平容保を京都守護職に任じる。

文久3年（1863）、將軍徳川家茂が229年ぶりに上洛。その警護に江戸から上った浪士組の一部が京に残り、新選組となった。

同じ年の八月十八日の政変で長州藩は京都を追われ、志士たちは町中の宿や料亭に潜み、巻き返しを図る。潜む志士と、見回る新選組。このゲームの舞台は「維新前夜」の京都だ。



河鍋晩斎「東海道名所之内 京筑地承明門」（1863年）。將軍の上洛を題材にした錦絵の描物（通称「御上洛東海道」）の一枚で、御所の承明門を描く。描物は江戸の20以上の版元から、16人の絵師による160枚ほどが出された。

六つの施設で起きたこと



翠紅館の送陽亭（1939年）

① 翠紅館 文久3年（1863）西本願寺の別邸。長州藩を中心とする尊王攘夷派の志士が集まり、攘夷の実行について密かに話し合ったとされる（翠紅館会議）。会議の広間は、いまでも料亭に残る。

② 枳屋 元治元年（1864）6月5日 薪炭商「枳屋喜右衛門」の正体は、志士を陰で支えた古高俊太郎。早朝に新選組に捕らえられ、店からは武器や書状が見つかった。厳しい取り調べで京に火を放つ計画を白状したとされ、その夜の池田屋へとつながる。



枳屋の跡と古高の書（1924年）

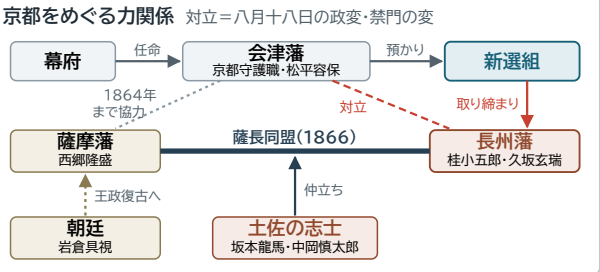


旅籠池田屋（1924年）

③ 池田屋 元治元年（1864）6月5日 志士たちが集まった三条の旅籠を、新選組が襲った。近藤勇らわずか数人が斬り込み、多くの志士が討たれ、あるいは捕らえられた。新選組の名は一夜で天下に知れ渡り、長州が兵を挙げる禁門の変の引き金にもなった。

年表 ●の番号は右の地図・下の六つの施設

- 1853 嘉永6 ペリー来航。開国か攘夷かで国論が割れる
- 1858 安政5 日米修好通商条約。安政の大獄
- 1862 文久2 ⑤ 寺田屋騒動 薩摩藩士どうしが斬り合う 岩倉具視が失脚し、洛北に身をひそめる
- 1863 文久3 浪士組が上洛。のちの新選組となる ① 翠紅館で尊攘派の志士が会合 八月十八日の政変。長州が京を追われる
- 1864 元治1 6月5日 ② 枳屋の古高俊太郎が捕らわれ、その夜 ③ 池田屋事件 6月10日 ④ 明保野亭事件 7月19日 禁門の変。久坂玄瑞が自刃
- 1866 慶応2 1月 薩長同盟 1月23日 ⑤ 寺田屋で龍馬が襲われる
- 1867 慶応3 10月14日 大政奉還 11月15日 ⑥ 近江屋事件 12月9日 王政復古の大号令
- 1868 慶応4 鳥羽・伏見の戦い。時代は明治へ



明保野亭の跡（1939年）

④ 明保野亭 元治元年（1864）6月10日 池田屋事件の5日後、残党を探して料亭に踏み込んだ会津藩士・柴司が、土佐藩士・麻田時太郎を傷つけた。会津と土佐の争いになりかねない事態を収めるため、当事者の2人がともに切腹した。



寺田屋（1939年）

⑤ 寺田屋 慶応2年（1866）1月23日 伏見の船宿。泊まっていた坂本龍馬を伏見奉行所の捕り方が囲んだ。入浴中に異変に気づいたお龍が二階へ駆け上がって知らせ、龍馬はピストルで応戦して逃れた。文久2年には薩摩藩士どうしが斬り合う寺田屋騒動も起きている。

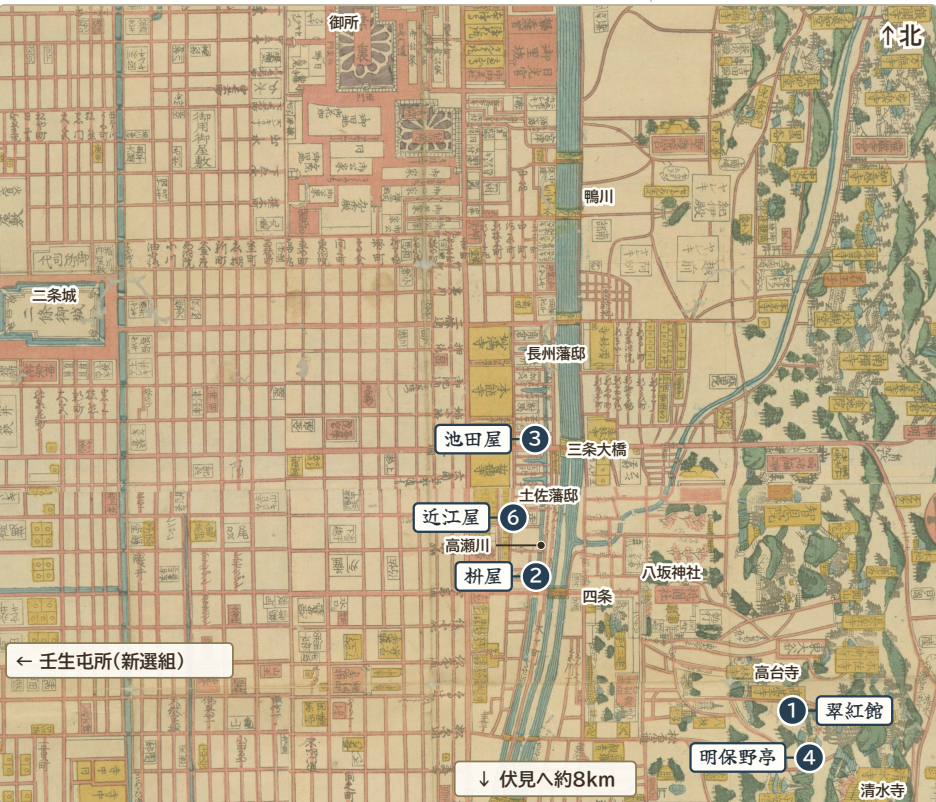


遭難の地の碑（1939年）

⑥ 近江屋 慶応3年（1867）11月15日 醤油商の二階で、坂本龍馬と中岡慎太郎が刺客に襲われた。龍馬はその夜に、中岡は2日後に息を引き取る。実行したのは京都見廻組とする説が有力だが、謎はいまも残る。大政奉還から、わずか1か月後のことだった。

六つの施設には、それぞれの名を冠したカードが1枚ずつある。手札に来たら、その施設へ戦いを誘い込もう。

六つの施設と京の町 文久3年（1863）の京絵図に書き加えた。位置はおおよそ



伏見（洛中から南へ約8km）

高瀬川かいわい 池田屋・枳屋・近江屋、長州藩邸・土佐藩邸は、高瀬川沿いの数百メートルに集まっていた。

京と伏見 高瀬川の舟が京と伏見を結び、伏見から淀川の船で大坂へ下った。寺田屋はその船宿。

地図：「文久改正新增細見京絵図大全」（文久3年＝1863年、72×100cmの一枚刷り）の一部。国立国会図書館蔵。番号と名前、矢印を書き加えた。

人物の素顔



桂小五郎 **倒幕志士** 長州 1833-77 神道無念流の剣の達人。池田屋事件も禁門の変も生きのび、「逃げの小五郎」と呼ばれた。維新後は木戸孝允として新政府を支える。 《逃げの小五郎》《神道無念流》



坂本龍馬 **倒幕志士** 土佐 1836-67 土佐を脱藩し、のちに海援隊を率いた。薩長同盟の仲立ちをし、寺田屋ではピストルで危機を脱する。近江屋で討たれたのは、33歳の誕生日だったと伝わる。 《ピストル》



中岡慎太郎 **倒幕志士** 土佐 1838-67 陸援隊の隊長。いがみ合う長州と薩摩を結ばせようと各地を駆け回った。近江屋で龍馬とともに襲われ、2日後に亡くなる。 《薩長同盟》



久坂玄瑞 **倒幕志士** 長州 1840-64 吉田松陰の門下で、松陰の妹を妻とした。禁門の変で長州勢を率いたが敗れ、自刃。25歳。写真は残っていない。 《禁門の変》



岩倉具視 **中立** 公家 1825-83 公武合体を進めたため尊攘派に憎まれ、文久2年に失脚。洛北の岩倉村に5年近く身をひそめ、王政復古の策を練った。写真は1872年、岩倉使節団で米欧へ渡ったときの姿。



近藤勇 **新選組** 局長 1834-68 天然理心流の道場・試衛館の主。池田屋には自ら斬り込んだ。愛刀は名工・虎徹の作と伝わるが、真偽は諸説ある。 《虎徹》



土方歳三 **新選組** 副長 1835-69 厳しい隊形で隊士を律した「鬼の副長」。愛刀は和泉守兼定。新選組が京を去ったあとでも戦い続け、箱館で戦死した。 《和泉守兼定》《局中法度》



沖田総司 **新選組** 一番組 1842?-68 若くして天然理心流の塾頭を務めた天才剣士。得意の突きは「三段突き」と語り継がれる。病で早世し、確かな写真はない。 《三段突き》



永倉新八 **新選組** 二番組 1839-1915 桂と同じ神道無念流の使い手で、池田屋でも奮戦した。晩年の聞き書き『新撰組顛末記』は、新選組を知る貴重な記録。写真は数え75歳のころ。 《顛末記》



西郷隆盛 **中立** 薩摩 1828-77 禁門の変では長州と戦ったが、のちに薩長同盟を結んで倒幕へ。確かな写真は残っておらず、よく知られる顔はキョッソーネの肖像画による。

人物写真：桂（木戸孝允）・龍馬・近藤・土方・西郷は 出典：国立国会図書館「近代日本人の肖像」（<https://www.ndl.go.jp/portrait/>）。岩倉は使節団の写真（1872年）、永倉は晩年の写真。「絵」はカードの肖像画。 施設の写真：『維新史蹟図説 京都の巻』（維新史蹟会、1924年）・『維新の史蹟』（大阪毎日新聞京都支局、1939年）、NDLデジタルコレクションより。錦絵：河鍋晩斎「東海道名所之内 京筑地承明門」、国立国会図書館蔵。